

阪神・淡路大震災 25年

災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2020

伝える大震災、つながる防災

KOBÉのことば

参加無料

活動報告会

日時 **2020.1.11** SAT
10:00 → 16:00

会場 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所
共催：京都大学防災研究所 自然災害研究協議会
企画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会
後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞社/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部

これまで私たちは「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」、そしてその教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOBÉ」を実践してきました。

2016年からの10年は当時大人だった世代が少なくなるさらに次の10年を見据えて、今後使える方法やしぐみを試行錯誤し、発見し、つくる10年とし、「KOBÉのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクションKOBÉ」という取組みを開始しました。

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。大震災を直接経験していない若い世代の人たちと共に、「KOBÉのことば」から何を受けとり・何をどう伝えていくべきかを考えながら、未来へ活かす取組みをしていきます。

第1部：災害メモリアルアクションKOBÉ 2020 活動報告会

※敬称略

10:00 開会挨拶

災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会委員長
人と防災未来センター震災資料研究主幹
京都大学防災研究所 教授 牧 紀男

10:05 活動発表

- 発表 ① 神戸市立渚中学校 + 兵庫県立大学
② 兵庫県立舞子高等学校
③ 滋賀県立彦根東高等学校
④ 国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°(明石高専防災団) 地域連携チーム
⑤ 国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°(明石高専防災団) 開発チーム
⑥ 神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ
⑦ 関西大学 社会安全学部 奥村研究室

12:00 パネルディスカッション「今、私が伝えたい??こと」

防災は、わたしたちの大切な出来事を、だれかの大切な未来へつなげる試みです。そんな試みをアクションすることになった学生たちと、震災を「伝えたい」「活かしたい」という思いの原動力や活動の中での迷いや気付きを考えます。福島の一とたちと一緒にことばを探しているチームと、神戸の一とたちと一緒に避難所のあり方を考えているチームに登場していただき、次の時代に「KOBÉのことば」が伝わるかたちを探ります。

コーディネーター
関西大学 社会安全学部 奥村 与志弘
人と防災未来センター 研究部 高原 耕平
グラフィックファシリテーション
TAGAYASU 鈴木 さよ
滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科3年 多田 裕亮
パネリスト
神戸市立渚中学校 生徒
神戸市立渚中学校 教員
滋賀県立彦根東高等学校 新聞部 生徒
滋賀県立彦根東高等学校 教諭 新聞部顧問 藤村 知行

12:55 講評・閉会挨拶

災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会顧問
人と防災未来センター長 河田 恵昭

13:00 昼休憩

第2部：阪神・淡路大震災25年 特別シンポジウム

14:00 オープニングコンサート

子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団

14:30 特別シンポジウム「向き合い続けた25年、これから」

阪神・淡路大震災を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」(~2005年)、その教訓を次世代に伝えるための「災害メモリアルKOBÉ」(~2015年)、さらに次の10年を見据えて若い世代が取り組む「災害メモリアルアクションKOBÉ」(2016年~)。この3つの活動について振り返り、活動の意義や思い、これからについて、それぞれの活動を牽引してきた、河田・諏訪・牧の3氏が語り合います。

コーディネーター
NHKアナウンサー 大山 武人
グラフィックファシリテーション
TAGAYASU 鈴木 さよ
滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科3年 多田 裕亮
パネリスト
人と防災未来センター長 河田 恵昭
防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪 清二
京都大学防災研究所(人と防災未来センター) 牧 紀男

活動発表

神戸市立渚中学校 + 兵庫県立大学



阪神・淡路大震災後に出来た新しいまちHAT神戸に渚中学校があります。ここで、防災を中心に人と人のつながり、コミュニティを作り上げていくことを目的として、渚中学校と地域住民が連携した活動を行っています。そして、大災害を経験した大人たちから若い世代に、防災の知識、経験、ノウハウ、コミュニティの大切さを伝えていきます。

兵庫県立舞子高等学校



私たちは「同年代に語り継ぐ~被災者の視点だからこそ見えることを~」を目標に活動しています。ターゲットを被災者に絞り、阪神・淡路大震災の被害や背景を知ってもらうことで、これからの災害に備え、減災へとつなげます。私たちだからこそ伝えられることを伝えていくために、より多くの情報を分かりやすくまとめ、広く発信していきます。

滋賀県立彦根東高等学校



彦根東高等学校新聞部は、東日本大震災が発生してから8年間「福島をつなぐ」と題し、実際に福島に行って取材してきました。ここでは、復興活動に力を入れている方や、福島の魅力を伝える活動をしている高校生を取材し、お話をうかがいました。震災の記憶を風化させないためにも、これからも新聞部は福島の、そして神戸の様子も伝えていきたいと思っています。

ポスター発表

未来の準備室



福島県白河市を拠点に活動する高校生ライターグループ「裏庭編集部」です。東日本大震災からの復旧・復興・防災に関するヒト・モノ・コトを、ウェブサイトやフリーペーパーを媒介に、取材&発信しています。コミュニティ・カフェ EMANONを活動拠点に、現役高校生のメンバーとOBOGの大学生が共に活動しています。

兵庫県立明石南高校
めいなん防災ジュニアリーダー MRDP



平成25年に兵庫県教育委員会の「学校安全(防災)総合支援事業」への参加により防災ジュニアリーダーが誕生しました。毎年4月に1年生から募集し、防災や地域づくりに関心のある生徒が自主的に取り組んでいます。「絆~地域で繋がる防災~」を活動テーマに防災に限らず様々な地域イベントに参加しています。

国立明石工業高等専門学校
D-PRO135°(明石高専防災団)



地域連携チーム
私たちは地域と連携した活動をおこなっています。過去の活動では「明石市東二見地域の減災まちづくり」として感震ブレイカーの設置・点検や子ども世代を対象にしたイベント「防災寺子屋」の企画運営を行いました。現在は魚住まちづくり協議会の活動支援として、オリジナルの防災ゲーム「RESQ」を用いたイベントを開催するなど、地元での防災活動ネットワークを広げています。



開発チーム
私たちはオリジナル防災ゲームの開発をおこなっています。防災ボードゲーム「RESQ」の体験会を開催し、そこで出た意見を基に更なる改良、新たなゲームの開発を進めています。また、神戸高専との共同開発で作られた避難所運営ゲーム「チャレンジ!」のルール改訂への協力を行うなど、高専生ならではの視点を活かして「遊んで学べる」防災ゲームの開発・改良を進めています。

神戸学院大学 現代社会学部
社会防災学科 安富ゼミ



安富ゼミでは、2017年度からこの企画に参加し、「阪神淡路大震災の教訓って?」をテーマに調査・研究を続けて毎年発表しています。今年は、住民の方9人、研究者ら12人、消防経験者4人、マスコミ関係者3人の計28人を目標にインタビューを進めています。昨年の27人と合わせて55人となり、新聞の枚数としては19枚となります。

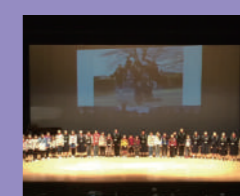
関西大学 社会安全学部 奥村研究室



阪神・淡路大震災では、直接、地震で命を落とさなくても、大きな精神的ストレスと劣悪な生活環境によって失われる命があるという事実が初めて広く社会に認知されるようになった。「災害関連死」である。あれからまもなく25年、私たちの研究室では、その後の災害でも繰り返される関連死の発生状況を分析するとともに、当時の教訓は生かされているのかを検証している。

合唱

子どもに音楽を贈る会
福島しあわせ運べるように合唱団



東日本大震災で被災した福島県浪江町と二本松市の有志により「子どもに音楽を贈る会」を結成。その後、二本松市立杉田小学校を中核に公募により集まった市内在住小中高・大学生で編成される合唱団「震災経験を通じて出会い、以来歌い継ぐ「しあわせ運べるように(福島バージョン)」などを披露します。現在の団員41名で来神。

「災害メモリアルアクションKOBÉ」は
阪神・淡路大震災のつらい経験を
二度と繰り返したくないという強い思いから、
学んだことを次に活かすことができる形をつないでいこうという取り組みです。

大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。

その個々の経験を未来へどう活かせるか。
世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。
今のKOBÉだからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、
これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ
防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために。

「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、
新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、
継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、
将来の被災者を減らします。

伝える大震災、つながる防災



お問い合わせ

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター事業部普及課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 西館6階
Tel : 078-262-5060 Fax : 078-262-5082
Email : hitobou-fukyuuka@dri.ne.jp
HP : http://www.dri.ne.jp/memorial_action_kobe

本研究は京都大学防災研究所共同研究(令和元年度一般研究集会2019K-03)の成果によるものです。



阪神・淡路大震災25年